

(敷島小) 学校 学校関係者評価書 (後期)

平成 26 年 2 月 3 日 (月)

(敷島小学校) 学校関係者評価委員会作成

第 2 回 学校関係者評価委員会

実施日：平成 26 年 2 月 3 日 (月) 午後 3 時 30 ～ 5 時 00 分

会 場：敷島小学校校長室

参加者：(学校関係者評価委員)

学校評議員：松土 仁郎、清水美代子、辻 英夫、三井 和彦

(学校側)

校 長 志村 隆

教 頭 坂本祐二

教務主任 松井 渉

I 学校側から提案された内容

学校側から、12 月に学校において実施した「教職員自己評価」及び「児童アンケート」、「保護者アンケート」を基礎資料として分析し、まとめた「自己評価書」に基づき、次の内容について提案があった。

(1) 学校教育目標及び学校経営方針について

(2) 自己評価について

① 全体評価

② 項目ごとの評価結果について (達成状況・改善策)

(ア) 学校教育目標に関して・学校経営について

(イ) 学校運営について

(ウ) 学習指導について

(エ) 生徒指導について

(オ) 地域との連携について

(カ) 学校の特色に関して

(3) まとめ

II 協議された主な内容

1 教職員自己評価及び児童アンケート、保護者アンケートの結果について

- ・ 教職員の自己評価 (学校経営、学校運営、学習指導、生徒指導、地域との連携、学校の特色等) に関する各設問に対し、90%以上の職員が「そう思う」「ややそう思う」と回答している。また、児童アンケートの「学校は楽しいですか」の設問に対し、全校児童の 91.9%が「とても楽しい」「楽しい」と回答し、保護者アンケートでも、「学校は熱心に授業に取り組んでいると思う」「学校 (学年・学級) だよりから教育活動の様子を知ることができる」といった教育活動に対する設問に、80%以上が肯定的な評価をしている。このことから、教職員は積極的に職務にあたっていること、児童や保護者は教育活動に満足していることを推察することができる。
- ・ 児童のアンケートで授業に関する設問「学校の授業は楽しいですか」に対し、89.9%が「とても楽しい」「楽しい」と回答している。「算数の授業の内容は分かりますか」という設問に対し 93.2%の児童が「よくわかる」「わかる」と回答している。また、「授業中に意見や質問を言っていますか」の設問に対しては、「よく言っている」「言っている」と 69.0%の児童が回答しており、前

期に比べ6.0ポイント減少した。この点の減少については、主体的に臨む授業態度の育成を一層進めていく必要がある。

- ・豊かな心の育成というねらいから奉仕活動を教育活動に位置づけ、保護者と連携した「牛乳パックの回収」や「クリーン作戦」、総合的な学習の時間における福祉教育を行っているとのこと、さらに取り組みや交流を進めていって欲しい。

2 学習指導について

- ・宿題については、保護者アンケート「お子さんは宿題を忘れずにしますか」の設問に、「いつもしている」「だいたいしている」が合わせて95.9%であった。同様の児童アンケート「宿題を忘れずにしていますか」の設問に対し、「よくしている」「している」が合わせて88.0%である。一方、保護者アンケートで、宿題以外の課題に対しては、「宿題の他にも家庭で自主学習をしていますか」では、58.0%が「あまりしていない」「していない」と回答しており、同様の児童アンケート「学校以外で学年の目標時間の勉強をしていますか」で、「していない」「あまりしていない」の回答の合計が24.2%であった。与えられた課題だけでなく、自発的な課題に対しても、取り組んでいく姿勢が、学年の発達段階に応じて高まっていくとよいと考える。自主的な学習について、学校としても「自学のすすめ（家庭学習）」の取り組みを行っていく予定である。
- ・確かな学力を定着させるために、基礎的・基本的な知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力の育成、主体的な学習態度の一層の育成を図る。このため、体験的な学習や問題解決的な学習、言語活動を教育活動へ適切に位置づけるようにする。言語活動の充実に関しては、言語環境づくり（会話、あいさつ、放送）や意図的な言語活動の日常化を図る取り組み（1分間スピーチ、学習感想等）をさらに充実させていく。
- ・「思考力、表現力」の育成を目指し、意図的・能動的な言語活動を取り入れた指導を行ってきた。成果は確実に上がって来ているが、今後も継続した指導に努めていって欲しい。また、読書に関しても、「朝読書」「読み聞かせ」など日常活動の取り組みの継続と家庭での「親子読書」等を引き続き奨励してもらいたい。

3 生徒指導について

- ・生徒指導に関連する設問「教師と児童との関係～相談できる先生がいる」に対し、教職員は「児童理解のためのコミュニケーションを図っている」の設問に、「そう思う」「ややそう思う」が合わせて96.3%であるのに対し、児童は「もしこまったことがあったら、そうだんできる先生がいますか」の設問に対し、「いる」が70.7%であった。さらに保護者は「お子さんのことで相談できる先生がいますか」の設問に対し、「いる」が65.0%であった。教師と児童、学校と保護者、それぞれの間に認識と感じ方の違いがある。
- ・児童アンケートで「将来の夢や目標を持っていますか」の設問に対し、64.3%が「しっかり持っている」と回答している。その割合を学年で比較すると、学年が上がるに従って低くなり、5年生で61.4%、6年生に至っては31.1%であった。低学年においては、設問が意図する回答を得ることが難しい点もあると思うが、学年が上がるに従って割合が下がるのは、自分の持つ能力・適性と職業について、真剣に考え始めていることの表れではないかと考える。

4 家庭、地域との連携について

- ・常に学校は、学校・学年・学級便り、ホームページ等を利用して、情報を発信していることは大変評価できる。

- ・開かれた学校づくりという点で、保護者アンケートの「PTA活動に参加している」の設問で、「あまり参加していない」「参加していない」が合わせて20.9%であった。また、学校側は、音楽会や運動会への保護者参加は高いが、授業参観後の懇談会等の参加はやや少ないようである。内容や期日、時間帯等を工夫したり、保護者だけではなく地域住民への学校教育活動への参加機会を保障することも検討して欲しい。
- ・学校外の人材活用について、安全安心の確保の面から「高齢者ふれあい事業」の活用、学習支援の面で「山梨大学学習ボランティア」の活用、また、生活科での保護者の協力、地域の高齢者による「昔遊び教室」等、人材活用が進められていることは大変評価できる。学校、家庭、地域が一体となつての教育活動をなお一層推進していただきたい。敷島小学校版の人材バンクを整備していくとさらに充実した取り組みとなると思う。

＜学校関係者評価書＞

I 全体評価

- ・教職員の自己評価や児童アンケートの回答から見ると、前期と同様、教育活動及び学校運営（学校経営、学校運営、学習指導、生徒指導、地域との連携、学校の特色等）について、「そう思う」「ややそう思う」と回答している割合がほとんどである。これは、校長のリーダーシップの下、年間を通して教職員が学校経営方針を理解し、日常の教育実践や校務分掌を処理してきたということである。教職員が自覚と責任をもって職務に専念したととらえている。
- ・児童アンケート「学校は楽しいですか」の設問に対し、「とても楽しい」「楽しい」が合わせて91.9%であった。保護者アンケート「お子さんにとって学校は楽しいところだと思う」に対し、「とても思う」「思う」合わせて92.7%であった。子どもと保護者が教育活動や学校運営に満足していることがわかる。
- ・「P→D→C→Aサイクルで教育活動が取り組まれている」「P→D→C→Aサイクルを生かした教育活動を行っている」の両設問に対し、「そう思う」「思う」合わせて、それぞれ92.8%以上であったことは、教職員が改善システムを活用し、絶えず評価、改善を行っていることが評価することができる。

II 特徴

- ・教職員が共通理解の下、進んであいさつができるよう指導に努めていること、保護者も家庭内でのあいさつ、地域の人々にあいさつをすることを指導していることが評価結果から分かる。そして、子ども達がそれに応えるようにあいさつをしていることも分かった。繰り返し指導し、「あいさつの声がひびきあう学校」を目指し、取り組んで欲しい。
- ・学校の特色の一つである音楽活動に関する保護者のアンケート、「学校は音楽活動に力を入れて取り組んでいる」の設問に対し、「そう思う」「思う」が合わせて93.2%であった。学校が特色ある活動として位置づけ、全校を挙げて取り組んできたことを保護者はよく理解し、また高い評価をしている。学校の特色として定着してきていることがうかがえる。こうしたすばらしい活動を、大いに地域に発信して欲しい。（HPの閲覧についても一層の呼びかけを。）

III 今後の課題として意識されたいこと

- ・教職員の自己評価と児童アンケート、保護者アンケートとにより、教育活動や学

校運営の状況を把握することができた。学校評価結果を踏まえ、PDCAサイクルによる教育活動や学校運営の改善を繰り返したことで、充実した実践ができたのではないかと。しかし、課題が何もないわけではない、学校評価で明らかになった家庭での学習のあり方、PTAの自主的活動の推進、地域の人材活用などの課題解決に向け、学校、家庭、地域が一体となり、PDCAサイクルを有効活用して取り組んでいただきたい。

- ・地域の公的教育機関として、授業参観や懇談会の定期的開催、諸行事への参加、交流や共同学習の実施、地域への物的開放（施設開放）、機能の解放（教員の専門性を生かした講座、教科等に関わる講座）を図ることはもちろん、生涯学習の視点で、地域の人々や高齢者が学習した成果を学習支援といったことで、学校教育に生かすことができるよう努める必要もあると考える。

※特記事項 なし

記載責任者（敷島小学校 学校関係者評価委員） 氏名：小田切道之 印